

西部開発事業(畑地帯総合土地改良事業)

—緊急発掘調査報告—

児塚遺跡

1979

伊那市教育委員会
南信土地改良事務所

西部開発事業(畑地帯総合土地改良事業)

—緊急発掘調査報告—

児塚遺跡

1979

伊那市教育委員会
南信土地改良事務所

序

西春近地区は伊那市の南部地区に位置し、山麓より流れ出する幾多の小河川によって見事な自然景観を形成しています。このような条件が整っていますので、遺跡数は80ヵ所に達し、この数では地区において最も多いものとなっています。このような景観を破壊する開発の波が押し寄せてまいりました。これとともに、地中に長く埋っていた文化財（埋蔵文化財）も危機に直面しています。これを現状保存するのには社会的諸条件によって不都合なために記録保存という措置を行いました。ここに報告される児塚遺跡は伊那西部土地改良事業（西春近南小出）の地区内に該当し、工事着工以前に南信土地改良事務所より委託を受けた伊那市教育委員会が発掘調査を実施致しました。

発掘の成果は報告書に述べてありますように、土塙3基、溝状遺構2基、集石2基であります。

報告書の刊行にあたっては、この発掘調査の実施に深い御理解と御指導下さった南信土地改良事務所職員一同、適切な判断、処置をして下さった友野良一団長を始めとする調査団の各位に深甚なる謝意を表する次第であります。

昭和54年3月8日

伊那市教育委員会
教育長 伊 沢 一 雄

凡　　例

1. 今回の発掘調査は、西部開発事業に伴なう、土地改良事業で、第6次緊急発掘調査にもとづく報告書とする。
2. この調査は、県営畠地帯総合土地改良事業に伴なう緊急発掘で、国、県、市の補助金のもとに、事業は長野県南信土地改良事務所の委託により、伊那市教育委員会が実施した。
3. 本調査は、昭和53年度中に業務を終了する義務があるため、報告書は図版を主体とし文章記述もできるだけ簡略にし、資料の再検討は、後日の機会にゆずることにした。
4. 本文執筆者は、次のとおりである。担当した項目の末尾に氏名を記した。

飯塚政美、友野良一

◎図版作製者

遺構及び地形

友野良一、飯塚政美

◎写真撮影

発掘及び遺構・遺物

友野良一、飯塚政美

5. 本報告書の編集は主として、伊那市教育委員会があたった。

目 次

序

凡 例

目 次

挿図目次

表 目 次

図版目次

第Ⅰ章 環 境	(1 ~ 3)
第1節 位 置	(1)
第2節 地形・地質	(2)
第3節 周辺遺跡との関連	(2)
第Ⅱ章 発掘調査の経過	(4 ~ 6)
第1節 発掘調査の経緯	(4)
第2節 調査の組織	(4)
第3節 発掘日誌	(5 ~ 6)
第Ⅲ章 造 構	(7 ~ 12)
第1節 土 塙	(7 ~ 9)
第2節 溝状造構	(9 ~ 10 · 11)
第3節 集 石	(10 · 12)
第Ⅳ章 造 物	(13 ~ 15)
第1節 土 器	(13 ~ 14)
第2節 石 器	(15)
第Ⅴ章 ま と め	(16)

挿図目次

第1図	位置及び遺跡分布図	(1)
第2図	地形図	(3)
第3図	遺構配置図	(7)
第4図	第1号土塁実測図	(8)
第5図	第2号土塁実測図	(9)
第6図	第3号土塁実測図	(9)
第7図	第1号溝状遺構実測図	(10)
第8図	第2号溝状遺構実測図	(11)
第9図	第1号集石実測図	(12)
第10図	第2号集石実測図	(12)

表目次

第1表	出土土器の形状一覧表	(13)
第2表	出土土器の形状一覧表	(13)
第3表	出土土器の形状一覧表	(14)
第4表	出土土器の形状一覧表	(14)
第5表	出土土器の形状一覧表	(14)
第6表	出土石器の形状一覧表	(15)
第7表	出土石器の形状一覧表	(15)
第8表	出土石器の形状一覧表	(15)

図版目次

図版1	遺跡全景
図版2	遺構
図版3	遺構
図版4	遺構
図版5	遺構
図版6	遺物出土状況
図版7	出土土器
図版8	出土土器
図版9	出土土器
図版10	出土土器
図版11	出土土器
図版12	出土石器
図版13	出土石器
図版14	出土石器

第Ⅰ章 環 境

第1節 位 置

児塚遺跡は、長野県伊那市西春近白沢部落に所在しています。遺跡地までの道順は飯田線下島駅で降りて、細窪といわれている洞を西へ約10程登りつめると信盛寺に着く、その寺に接して白沢部落が点在し、同部落の北側が遺跡地である。

遺跡の名称	
1 城平上	40 唐木原
2 城 平	41 唐木古墳
3 常輪寺跡	42 北丘B
4 宮 林	43 北丘A
5 山の根	44 北丘C
6 山 本	45 南丘B
7 常輪寺下	46 南丘A
8 上 村	47 南丘C
9 北 条	48 肥子田原
10 上島下	49 山の神
11 上 島	50 上の塚
12 東方B	51 沢渡南原
13 東方A	52 下小出原
14 村岡北	53 天伯原
15 村岡南	54 南 村
16 大 境	55 東 田
17 中 原	56 天 伯
18 百畝刈	57 下小出原
19 西垣外	58 井の久保
20 細ヶ谷A	59 表木原
21 細ヶ谷B	60 山の下
22 小出城	61 葛蒲沢
23 宮ノ原	62 富士山下
24 浜射場	63 富士塚
25 中 村	64 広垣外1
26 中村東	65 広垣外2
27 山寺垣外	66 鳥井田
28 白沢原	67 高速道
29 名 題	68 西春近南
30 名題西古墳	小学校附近
31 名題東古墳	69 安岡城
32 名題南	70 城の腰
33 児 塚	71 横 吹
34 鶴淵西古墳	72 和 手
35 鶴古塚東古墳	73 上手南
36 カンバ垣外	74 宮入口
37 九 山	75 寺 村
38 南小出南原	76 下 牧
39 藤師堂	77 下牧経塚



第1図 位置及び遺跡分布図

第2節 地形・地質

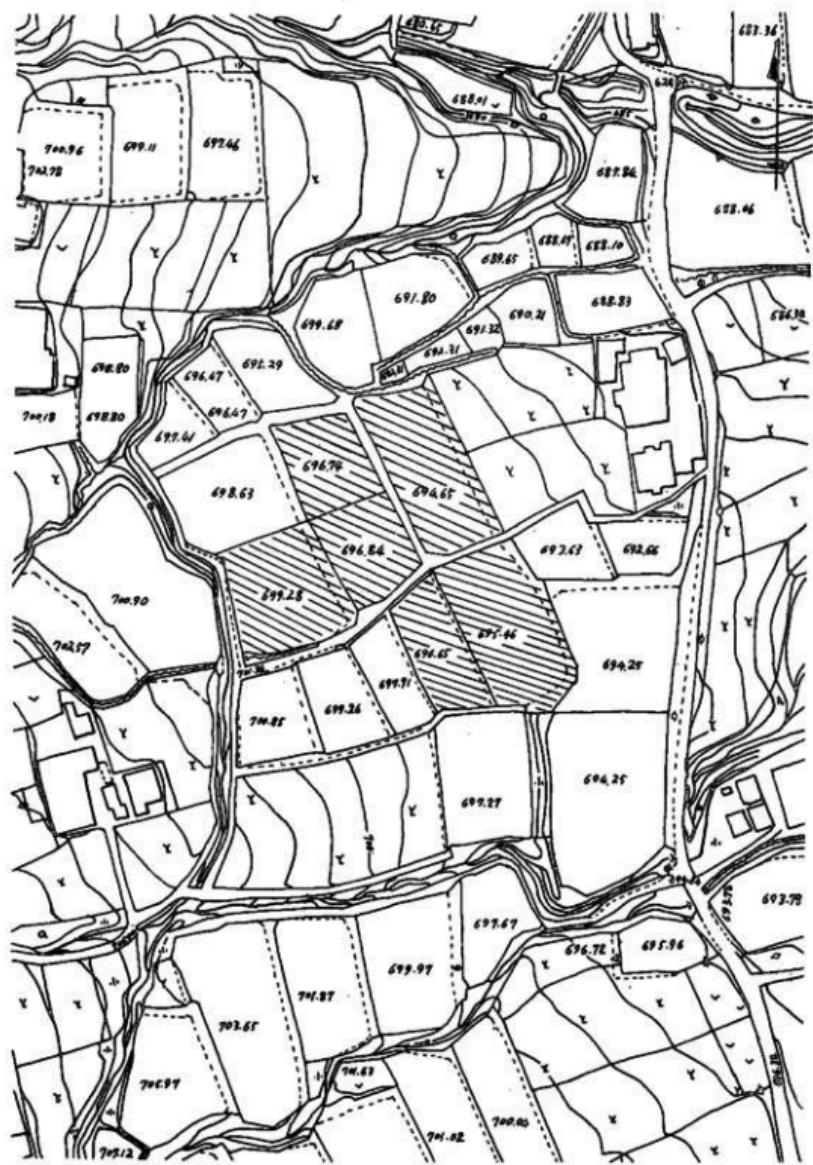
今までに西春近地区についての地形・地質について述べられているのを参考にして述べてみることにする。『伊那谷に一般的に通ずる地形は西に、中央アルプス、東に南アルプス、その前山である伊那山脈とにはさまれた南北に細長い盆地状地形を呈している。中央の最低部に源を諏訪湖に持つ天竜川が流れ、一般的によばれています縦谷状地形を成している。さらに本流である天竜川の両岸には数多くの小河川があり、それらによって形成された大小の扇状地、河岸段丘、渓谷が展開している。伊那市附近では小沢川、三峰川、小黒川が主なる河川であり、これらは同様に大きな段丘や扇状地を形成した要因となっている』（眼子田原遺跡報告書による）

児塚遺跡は小戸沢川の右岸段丘と、山麓の扇状地の双方の重なった面に存在し、標高は690m～700mに前後に位置している。この地形は江戸時代初期に西方の山がくずれたという古記録が残された場所に面しているために、礫や砂の堆積が多くなっている。傾斜面は一般的に北側に向いており、現在は水田に利用されている。

第3節 周辺遺跡との関連

児塚遺跡を中心として、その周辺に分布している遺跡名及びその遺跡の時代的背景について述べることにする。細ヶA遺跡は縄文中期、細ヶ谷B遺跡は縄文早・前・中・後・晚期、土師器、須恵器、小出城遺跡は縄文後期、中世、宮の原遺跡は縄文中期、浜射場遺跡は縄文中期、中村遺跡は縄文中期、中村東遺跡は土師器、山寺垣外遺跡は縄文中期、中世、白沢原遺跡は縄文中期、土師器、須恵器、灰釉陶器、名廻遺跡は縄文早・中期、土師器、須恵器、灰釉陶器、名廻西古墳は横穴式石室、名廻東古墳は土師器、須恵器、横穴式石室、名廻南遺跡は縄文早・前・中期、土師器、灰釉陶器、鎮護塚西古墳は横穴式石室、鎮護塚東古墳は土師器、須恵器、横穴式石室、カンバ垣外遺跡は縄文中期、土師器、須恵器、灰釉陶器、丸山遺跡は縄文中期、中世城郭址、南小出南原遺跡は縄文中期、土師器、須恵器、灰釉陶器、中世唐木原遺跡は縄文前・中期、土師器、須恵器、唐木古墳は横穴式石室、北丘B遺跡は縄文早・中・後期、北丘A遺跡は縄文中期、土師器、北丘C遺跡は縄文中期、南丘B遺跡は縄文中期、土師器、南丘A遺跡は旧石器、縄文中期、弥生後期、土師器、須恵器、灰釉陶器、南丘C遺跡は縄文中期、眼子田原遺跡は縄文中期、山の神遺跡は縄文中期、土師器、上の塙遺跡は土師器、須恵器、沢渡南原遺跡は縄文中期、百駄刈遺跡は縄文早・前・中・後・晚期、土師器、須恵器、灰釉陶器、中世、中原遺跡は縄文後期、大境遺跡は縄文早・中・後・晚期、土師器、須恵器、灰釉陶器、中世、村岡南遺跡は縄文中期、中世城郭址、村岡北遺跡は縄文中期、宋錢、東方A遺跡は縄文後期、青磁、東方B遺跡は縄文中期、上島遺跡は縄文前・中期、土師器、須恵器、灰釉陶器、上島下遺跡は旧石器、縄文前・中期、北条遺跡は縄文中期、須恵器、硯、常輪寺下遺跡は縄文中期、土師器、須恵器、山の根遺跡は縄文早・前・中・後・晚期、弥生後期、土師器、須恵器、灰釉陶器、中世、城平遺跡は縄文・後・晚期、土師器、須恵器、灰釉陶器、中世である。

(飯塚 政美)



第2図 地形図(1:1500)

第Ⅱ章 発掘調査の経過

第1節 発掘調査の経緯

西春近地区の西部開発事業（県営畠地帯総合土地改良事業）は昭和48年度の上島、東方部落、昭和49年度の東方、村岡、城、山本部落にわたって行なわれてきました。昭和51年度は沢渡の上段、（眼子田原）地区が該当しました。昭和52年度は南小出、宮の原、中村部落にかけて行なわれました。本年度は柳沢地区と白沢、南小出地区が該当し、特に白沢地区の児塚遺跡は水田が多いために稻作の収穫を見て、発掘調査にかかるという当初からの計画通り11月中旬から着手いたしました。

発掘着工以前に南信土地改良事務所より委託する旨が伊那市教育委員会へ通知されました。市教育委員会では、その件について承諾しましたので、市教育委員会を中心に、児塚遺跡発掘調査会を結成し、この中に調査団を含めて業務を行うことにしました。

南信土地改良事務所長と市長との間で「埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書」を締結し、契約後、ただちに発掘準備にとりかかった。

第2節 調査の組織

児塚遺跡発掘調査会

調査委員会

委員長	伊沢 一雄	伊那市教育委員会教育長
副委員長	福沢続一郎	伊那市文化財審議委員会委員長
委員	赤羽 眞士	伊那市教育委員長
々	向山 達雄	南信土地改良事務所長
調査事務局	石倉 俊彦	伊那市教育委員会社会教育課長
々	有賀 武	課長補佐
々	米山 博章	係長
々	三沢真知子	主事

発掘調査団

団長	友野 良一	日本考古学协会会员
副団長	根津 清志	長野県考古学会会員
々	御子柴泰正	々
調査員	飯塙 政美	々
々	田畠 辰雄	々
々	福沢 幸一	々
調査補助員	北原 一喜	

第3節 発掘日誌

昭和53年11月15日 西春近柳沢の発掘現場より、発掘器材を運搬し、トラックより荷物をおろし次第、テントの設営をする。

昭和53年11月16日 水田のところどころに耕土を振り下げるグリットを設定し、同層の深さを調べる。本日、分布調査を入れた水田から、耕土層のすぐ下より流れがあったとみえて、多量の砂層の堆積をみた。

昭和53年11月18日 昨日、同様に、耕土の深さを調べるために分布調査を実施し、その地層下の状況をさぐる。

昭和53年11月20日 昨日、一昨日と調査した結果、耕土の様子が判明したので、ブルトーザーを入れて耕土はぎを実施する。耕土剥ぎを実施した時点で、北側の水田を1区、南側の水田を2区とし、そのなかをグリット毎に南から北へA～Q、東から西へ1～34とする。傾斜地の強い面に水田をつくったので、水田の土手が高くて、困難したので、その部分にはグリットをつらなかった。グリットを除々に掘り下げていくと、遺物の出土量はかなりあったが、遺構らしきものはみあたらなかった。

昭和53年11月21日 東側から2枚目の水田にグリットを設け、掘り下げを開始してみると、昨日同様に、砂層の堆積が多くて、発掘に困難を極めた。それでもI区～I15、K18、N17の3カ所に落ち込みがみられ、前から第1号土壙、第2号土壙、第3号土壙とする。

昭和53年11月22日 昨日、検出された3つの土壙の掘り下げをするとともに、一番西側の水田にグリットを入れて掘り下げていくと、かなり多量の遺物が、また、かたまって出土し、遺構の期待が大きくなかった。夕方

までに3つの土壙を完
成する。

昭和53年11月25日
遺物の出土した附近を
拡張していくと1区G28～
H28にかけて花崗岩が
集中しており、これを
第1号集石とする。さ
らに西側に溝状の落
込みがみられ、これを
第1号溝状遺構とする

昭和53年11月27日
第1号溝状遺構を掘り
下げていくと、なかよ
り、山形、格子目、楕



発掘風景

円の押型文が相当量出土した。

昭和53年11月28日 昨日、同様に溝状遺構の掘り下げを実施する。覆土は黒土の落ち込みで見事に回わっていた。昨日、同様にかなりの量の遺物の出土をみた。

昭和53年11月29日 本日一杯かかって、第1号集石と、第1号溝状遺構の完掘を終了する。

昭和53年11月30日 今日、南側のⅡ区の水田にグリットを用けて掘り下げを開始するが、遺物の出土は少量であり、しかも砂層の堆積が極めて深かった。本日、一杯かかって最も東側の水田の掘り下げを終了する。

昭和53年12月1日 2枚目の水田の南西の一角に溝状の落ち込みがみられ、これを第2号溝状遺構とし、掘り下げを開始し、それを拡張していくと、同遺構の北側に花崗岩の石が集められておりこれを第2号集石とする。人数が多かったために、夕方までに、本遺構の完掘をする。

昭和53年12月2日 今までに掘り上げた遺構の掘り足りない部分の掘り下げを行なう。発掘も終了近くになってきたので主な道具の点検及び、そのあととかたづけをする。

昭和53年12月4日 第1号土塁、第2号土塁、第3号土塁、第1号集石、第2号集石、第1号溝状遺構、第2号溝状遺構の清掃及びその写真撮影を終了、さらに第1号土塁、第2号土塁、第3号土塁の平面及び断面実測。

昭和53年12月5日 第1号集石、第2号集石、第1号溝状遺構、第2号溝状遺構の平面及び断面実測、全測図の作製、発掘器材のあととかたづけ。

(飯塚 政美)



発掘風景

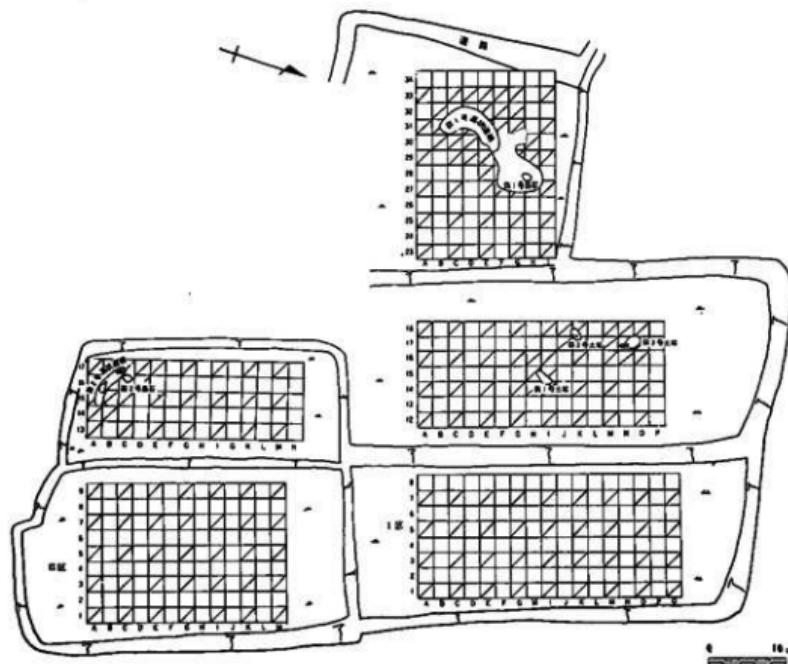
第Ⅲ章 遺構

第1節 土 坡

第1号土坡 (第4図、図版2)

発掘地区東から2枚目の水田下40cmで発見され、H 14, H 15, I 14, I 15の四つのグリットにまたがっている。砂礫混合のローム層面を掘り込み、南北2m 20cm、東西1m 18cm程の規模を持っている。平面プランは東側で若干は角張っては見えるが、全般的に長円形状を呈している。壁高は西側で23cm、東側で38cm、南側で15cm、北側で20cm位を測定でき、状態は東壁と西壁は外傾が割合に柔らかなものに対し、北壁と、南壁は傾斜が急である。壁面は全面にわたって凹凸が認められ、軟弱気味であった。

床面は凹凸がはげしく、軟弱気味であり、土坡内に見られる石は全てと言っていい程、ホルンヘ



第3図 遺構配図

ルスであった。遺物は何も出土しなかった。(友野 良一)

第2号土塙 (第5図、図版2)

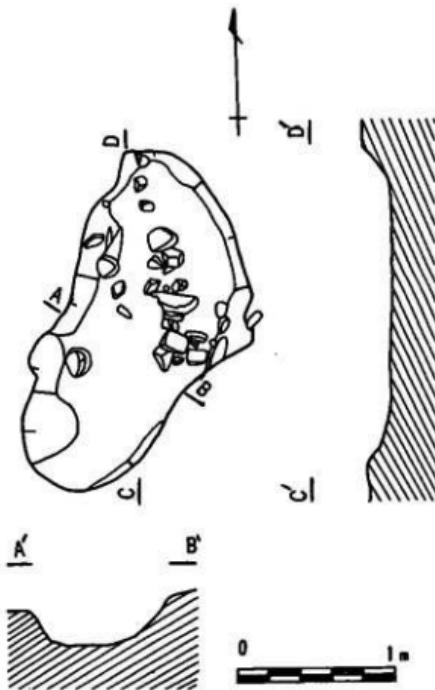
発掘地区の東側から2枚目の水田に発見された土塙である。本土塙の切り込み面までは耕作土層面より30cm位下った砂礫混合のローム層面を掘り込んである。ローム層面までの層位序列は耕作土層、地場層、黒色土層、砂層、ローム層の順であった。本土塙の検出された範囲はⅠ区J 17, J 18, K 17, K 18の四グリットにまたがっている。

規模は南北87cm、東西1m 62cm程度であって、プランは北側では若干凹凸はあるが、全般的には橢円形を呈している。

壁高は西側で19cm、東側で20cm、南側で18cm、北側で23cm程度を測定できた。壁面の状態は全面的に外傾し、わずかに凹凸が認められ、軟弱であった。

床面の起伏は特に顕著であり、西から東へは起伏と同時に傾斜も著しかった。硬度は軟弱気味であった。

遺物は何も出土しなかった。



第4図 第1号土塙実測図

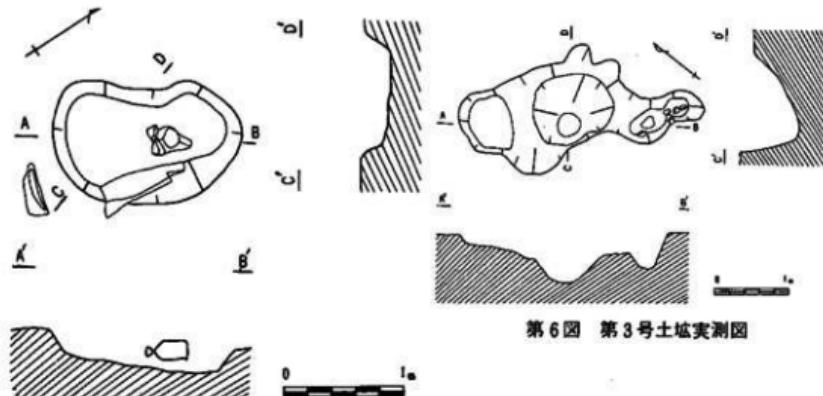
第3号土塙 (第6図、図版3)

この土塙は第2号土塙の北側の位置に検出された。水田耕作土層面より50cm位下った砂礫混りのローム層面を掘り込み、東西1m 30cm、南北3m 30cm程度の規模を有し、北側は若干とび出し、南側は若干くぼんではいるが、全般的には長円形状の平面プランを呈している。

壁高は西は浅く、南は深くなつておあり、80cm程度もある。壁面は全般的に外傾気味を成し、北壁に至つては、傾斜はなだらかになつておあり、しかも途中に段をもつてゐる。壁の状態は全般的に軟弱で、細礫の露出が目立つてゐる。床面はところどころにピット状の凹みがみられたが、主体となるのは中央部の大きいものと思われる。全般的にすりばち状に落ち込み、軟弱となつてゐた。

遺物は、何も出土しなかった。

(飯塚 政美)



第5図 第2号土塙実測図

第6図 第3号土塙実測図

第2節 溝状遺構

第1号溝状遺構 (第7図、図版3)

本遺構は今回発掘された遺構のなかでは最も西側に位置して発見された。表土面より50cm位下った砂層を掘り込んでつくられており、溝は南から西を経て北へ、さらに若干カーブを描きながら東へ回り結末となっている。溝の南北は8m、東西(幅)は1m75cm~2m40cmの範囲内におさまっている。壁面はやや外傾し、凹凸はとぼしく、ややかくなっていた。

床面は砂層のかたいタタキで、ほぼ水平となっていた。覆土中からは多量の炭化物の検出をみたまた、点在している石は花崗岩が大部分であった。遺物は押型文、縄文のついた繊維を含んだ土器条痕文土器等、縄文早期に位置するもの、それに伴なう石器類の出土をみた。

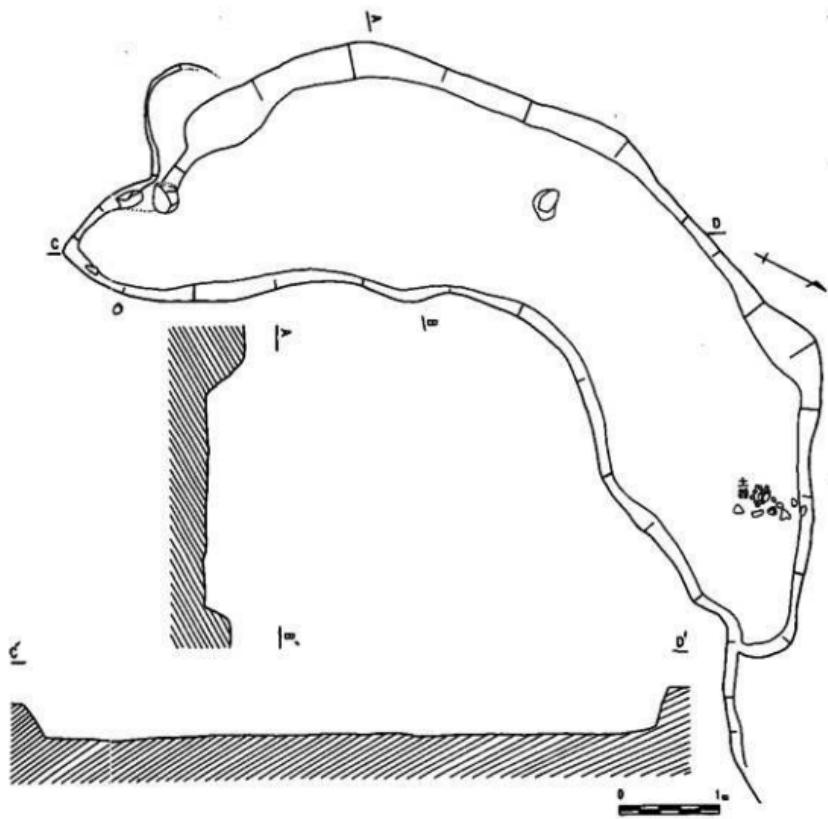
第2号溝状遺構 (第8図、図版4~5)

本遺構は今回発掘された遺構のなかでは最南西に位置して発見された。表土面より40cm位下ったローム層を掘り込んでつくられており、溝は西から東へと大般直線状に走っている。壁高はだらかな傾斜で外傾し、壁面の凹凸は少なく、かたくなっていた。

床面は凹凸が顕著で、中央部の凹みは大きく、またはかたくたかれていた。西側の石は大部分が花崗岩で、その大きさは拳大程から人頭大程であった。これらの石は流石のようではなくて配列の仕方から人為的な跡がみられた。なかには焼けた跡とみられる炭化物の附着した石もかなりの量含まれていた。

遺物は、何も出土しなかった。

(飯塚 政美)



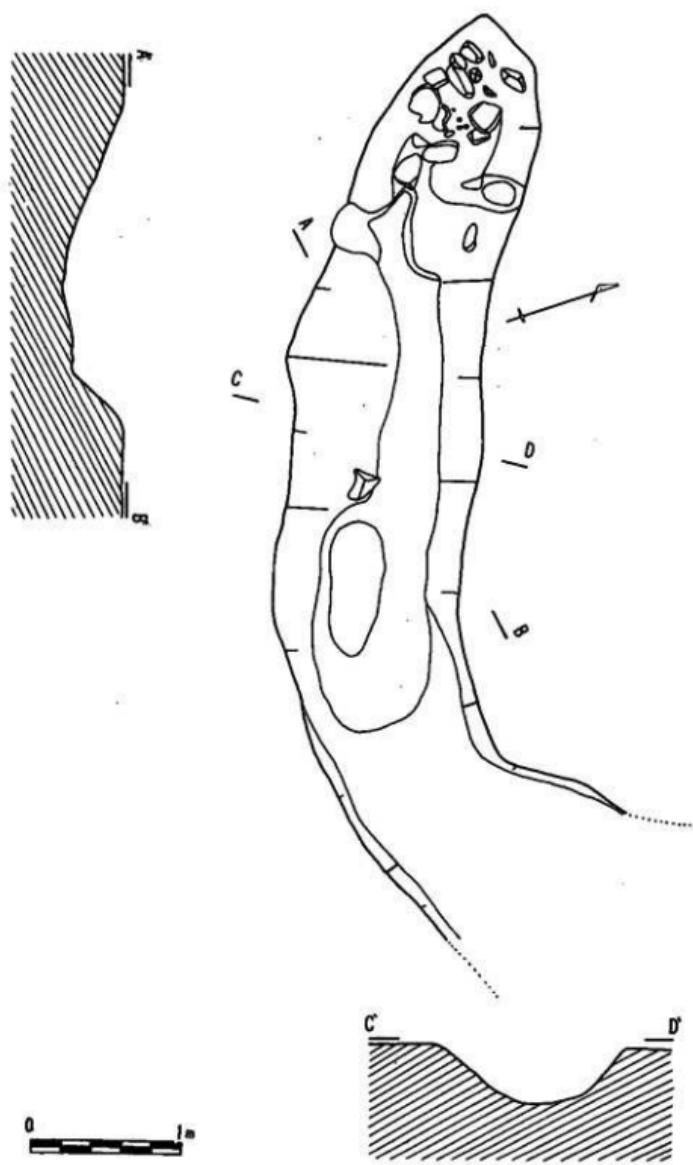
第7図 第1号溝状造構実測図

第3節 集 石

第1号集石（第9図、図版4）

本集石は第1号溝状造構の東側に検出された。右の配列されているレベルは表土面から30cm位下った黒土層の上面に配列されてあった。規模は南北1m80cm、東西85cmの規模で、石の大きさは拳大程から人頭大程位であり、さらに石質は花崗岩が主であった。石のなかには赤く焼けたのもみられた。

遺物は何も出土しなかった。



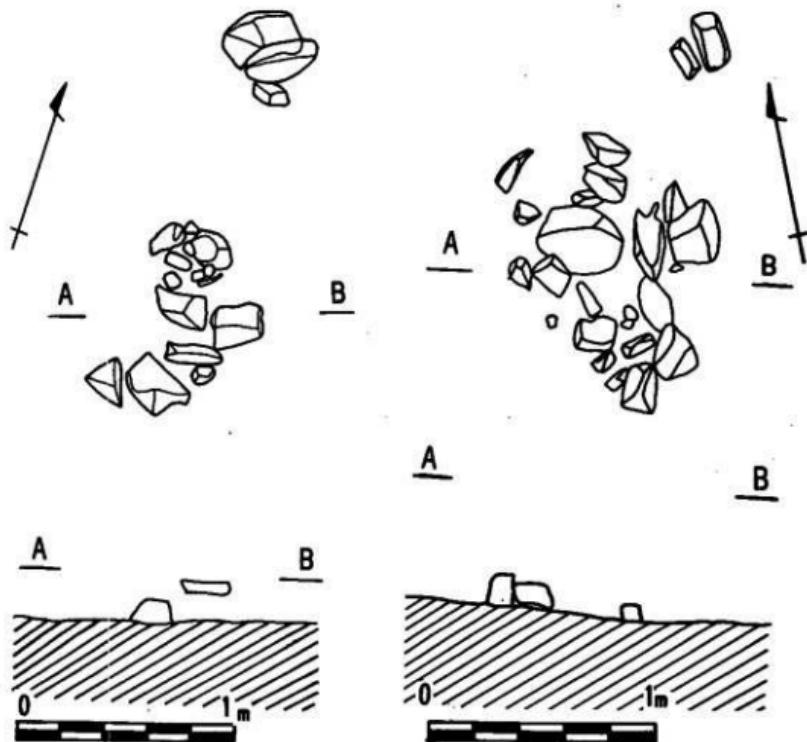
第8図 第2号溝状遺構実測図

第2号集石 (第10図、図版5)

本集石は第2号溝状遺構の北側に検出された。石の配列されているレベルはローム層の上面であった。規模は南北1m78cm、東西1m5cm程で、石の大きさは拳大程から人頭大程であり、さらに石質は花崗岩が主であった。石のなかには赤く焼けたものも認められた。

遺物は何も出土しなかった。

(飯塚 政美)



第9図 第1号集石実測図

第10図 第2号集石実測図

第Ⅳ章 遺物

第1節 土器

土器の説明はスペースの関係上表を作製して、一見のもとに理解できるようにした。一覧表の方について項目別に簡単な内容説明を附記しておくことにする。その項目は図版、番号、胎土、保存状態、色調、文様の特徴、備考等である。

胎土、保存状態、色調についての記述は、明らかなる基準によったものではなく、筆者の主觀によるものである。

(飯塚 政美)

図版	番号	胎土	保存状態	色調	厚さ(mm)	文様の特徴	備考
7	1	多量の長石	普通	黒褐色	8	山形文	グリット
タ	2	タ	タ	明茶褐色	7	格子目文	タ
タ	3	タ	不良	明黄褐色	9	タ	タ
タ	4	タ	普通	明赤褐色	8	タ	タ
タ	5	多量の雲母	不良	黒褐色	10	タ	タ
タ	6	タ	タ	明茶褐色	13	タ	タ
タ	7	タ	タ	赤褐色	10	タ	タ

第1表 出土土器の形状一覧表

図版	番号	胎土	保存状態	色調	厚さ(mm)	文様の特徴	備考
8	1	多量の雲母	普通	明茶褐色	10	市松文	第1号溝状追構
タ	2	タ	タ	黒褐色	10	タ	タ
タ	3	少量の長石	タ	タ	8	タ	タ
タ	4	タ	不良	明茶褐色	13	タ	タ
タ	5	多量の長石	タ	タ	11	格子目文	タ
タ	6	多量の雲母	普通	タ	9	タ	タ
タ	7	タ	良好	黒褐色	7	タ	タ
タ	8	タ	普通	赤褐色	10	タ	タ
タ	9	多量の長石	タ	明茶褐色	8	市松文	タ
タ	10	多量の雲母	不良	黒褐色	9	格子目文	タ
タ	11	タ	タ	明黄褐色	6	格子目文の底部	タ

第2表 出土土器の形状一覧表

図版	番号	胎 土	保存状態	色 調	厚さ(mm)	文 様 の 特 徴	備 考
9	1	多量の長石	良 好	黒褐色	9	沈線 刻目	グリット
♦	2	多量の繊維	善 通	明赤褐色	7	貝殻条痕文	♦
♦	3	♦	♦	明黄褐色	10	♦	♦
♦	4	♦	不 良	♦	9	♦	♦
♦	5	♦	♦	明茶褐色	8	擦 痕	♦
♦	6	♦	♦	♦	11	無 文	♦
♦	7	♦	善 通	黒褐色	7	縄 文	♦
♦	8	♦	不 良	赤褐色	6	擦 痕	♦
♦	9	♦	♦	茶褐色	10	貝殻条痕文	♦
♦	10	♦	善 通	赤褐色	6	♦	♦
♦	11	♦	不 良	明黄褐色	7	擦 痕	♦

第3表 出土土器の形状一覧表

図版	番号	胎 土	保存状態	色 調	厚さ(mm)	文 様 の 特 徴	備 考
10	1	多量の繊維	善 通	黒褐色	6	擦 痕	第1号溝状造構
♦	2	多量の雲母	良 好	明黄褐色	5	縄 文	♦
♦	3	♦	♦	黒褐色	4	♦	♦
♦	4	♦	♦	明黄褐色	5	♦	♦
♦	5	♦	♦	黒褐色	6	擦 痕	♦
♦	6	♦	♦	♦	5	縄 文	♦
♦	7	♦	♦	明茶褐色	4	♦	♦
♦	8	♦	♦	♦	4	♦	♦
♦	9	♦	善 通	黒褐色	5	縄文 補修孔	♦
♦	10	♦	♦	♦	4	縄 文	♦
♦	11	♦	良 好	明茶褐色	4	♦	♦
♦	12	♦	♦	♦	5	♦	♦

第4表 出土土器の形状一覧表

図版	番号	胎 土	保存状態	色 調	厚さ(mm)	文 様 の 特 徴	備 考
11	1	少量の雲母	良 好	黒褐色	8	縄文 隆帯	グリット
♦	2	少量の長石	♦	赤褐色	9	隆線 縄文	♦
♦	3	少量の雲母	♦	♦	8	沈線	♦
♦	4	♦	善 通	明黄褐色	9	沈線 S字状文	♦
♦	5	多量の雲母	♦	♦	8	沈線 縄文	♦
♦	6	少量の長石	良 好	黒褐色	10	隆線 沈線	♦
♦	7	多量の長石	不 良	黄褐色	10	♦	♦
♦	8	少量の長石	良 好	赤褐色	8	沈線 縄文	♦
♦	9	多量の長石	不 良	明黄褐色	9	八の字状文	♦
♦	10	少量の長石	善 通	明茶褐色	8	縄 文	♦
♦	11	少量の繊維	不 良	黒褐色	11	〃	♦
♦	12	少量の雲母	良 好	赤褐色	9	沈 線	♦

第5表 出土土器の形状一覧表

第2節 石 器

石器の説明は表を用いることにする。表の項目は図版、番号、名称、器形、石質、備考である。

(飯塚 政美)

図版	番号	名 称	器 形	石 質	備 考
12	1	剥片石器		硬砂岩	第1号溝状遺跡
・	2	・		・	・
・	3	・		・	・
・	4	・		砂 岩	・
・	5	礫 器		硬砂岩	・
・	6	剥片石器		・	・
・	7	・		・	・
・	8	・		緑泥岩	・

第6表 出土石器の形状一覧表

図版	番号	名 称	器 形	石 質	備 考
13'	1	礫 器		硬砂岩	第1号溝状遺跡
・	2	・		・	・
・	3	・		・	・
・	4	・		・	・
・	5	・		・	・
・	6	・		・	・

第7表 出土石器の形状一覧表

図版	番号	名 称	器 形	石 質	備 考
14	1	棒状石器		硬砂岩	グリット
・	2	敲 打 器		・	・
・	3	打製石斧	短骨形	緑泥岩	・
・	4	・	・	砂 岩	・
・	5	剥片石器		・	・
・	6	・		・	・
・	7	・		・	・
・	8	礫 器		硬砂岩	・

第8表 出土石器の形状一覧表

第V章 まとめ

児塚遺跡は西春近地籍ではほぼ中央部に、行政的に考えてみると西春近小出3区、白沢、南小出部落に位置している。昭和52年度夏、大規模農道で第1次の発掘調査を行ない多くの成果を得た。
（注1）その成果は23址、マウンドは2基、集石は8基、その他、縄文早期の土器片多数、石器多数の出土があった。今回の発掘して発見された遺構は土塙3基、溝状遺構2基、集石2基であった。各遺構についての諸特徴について説明を加えることにする。

土塙の形態であるが、プランは3基ともとこどころは角張り気味の長円形を成していた。規模は80cmから3m~30cm前後にわたって測定でき、從ってまちまちであった。壁面の起伏は複雑多岐であり、変化に富んでいた。床面も壁同様に変化に富んでいた。土塙の時代決定も出土遺物が全くなかったので、不詳と考えざるを得ない。

溝状遺構は2基検出され、プランは第1号ではカーブ状を、第2号では直線状を描いていた。大きさは第1号溝状遺構は8mにも及んでいた。壁面は双方とも外傾気味、床面は第1号は変化に乏しく、第2号はそれに富んでいた。第2号の西側には花崗岩を配石状に敷いた個所がみられ、石に炭化物の附着していたものもあった。したがって、この状態は明らかに人為的な意図を感じとれる。

時代決定については第1号からは縄文早期末葉から縄文前期初頭の土器片が多数出土しており、本時期と考えてよからう。第2号からは遺物の出土は何もみられず、よって時代決定は不可能である。

集石は2基検出され、規模は85cmから1m~80cm前後に含まれる。石の大きさは全般に拳大程から人頭大程で、石質は花崗岩が主となっていた。遺物の出土は何もみられず、時代は不詳である。

遺物についてであるが、土器と石器が多数みられた。まず土器について編年的な問題点について述べることにしてみよう。押型文は山形文、格子目文、市松文等一般的にみられるものが多く、市松文に至っては東海から近畿地方のものと類似している。図版9にみられる土器の一群は縄文早期末葉に位置づけられているもので、図版9の1は田戸上層式、2は口縁部が筒状を呈している。これは茅山上層式、6は色調からして、東海の柏原式に酷似している。両面に貝殻条痕文の入っているのは茅山上層式。器面に縄文の入っているものは茅山下層式の類に属していると思われる。図版10は薄手指痕細縦文土器、俗称【おせんべい式土器】と呼ばれている一群である。厚さは5mm前後と極めて薄いのが特徴的である。この一群には学問上、天神山式、塩屋式、木島式と呼ばれているが、この図版に記載してあるものはどちらかと言えば木島式に近いものと思われる。

図版11は縄文中期後葉加曾利E式の一群である。この手の土器は伊那市内の遺跡の中でその出土量は最も多い。

石器類のうちで、剥片石器、礫器、棒状石器、敲打器は縄文早期から縄文前期初頭に属していると思われる。打製石斧は縄文中期に属していると思われる。石質は硬砂岩や砂岩系が多いのは縄文早期から前期初頭に使用された石器の一つの特徴と考えてよからう。

終わりに当り、発掘作業に当つて大小となくお世話くださった作業員一同、当遺跡の調査に配慮を戴いた南信土地改良事務所職員一同、調査実施について積極的に御指導下さった長野県教育委員会職員一同に深甚の謝意を捧ぐる次第であります。

（飯塚 政美）

（注1）児塚遺跡（緊急発掘調査概報）伊那市教育委員会・伊那市建設部土木課

図 版



遺跡地を北側より眺む



遺跡地を東側より眺む



第 1 号 土 坡



第 2 号 土 坡



第3号土塙



第1号溝状遺構



第 2 号溝状遺構



第 1 号集石



第2号集石



第2号溝状造構と第2号集石の関係



土器出土状况



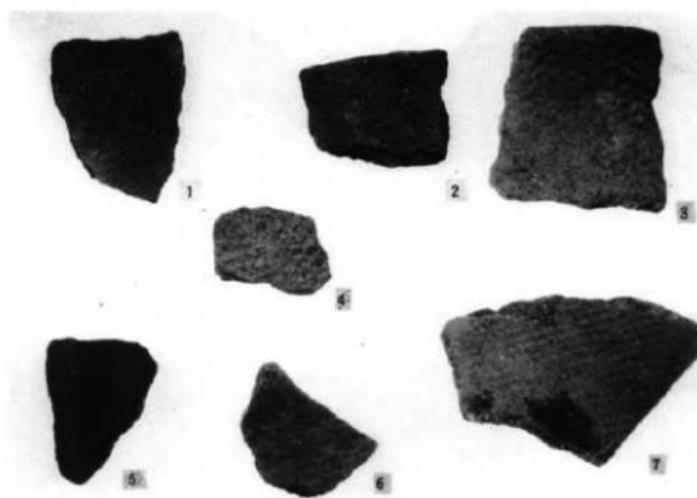
土器出土状况



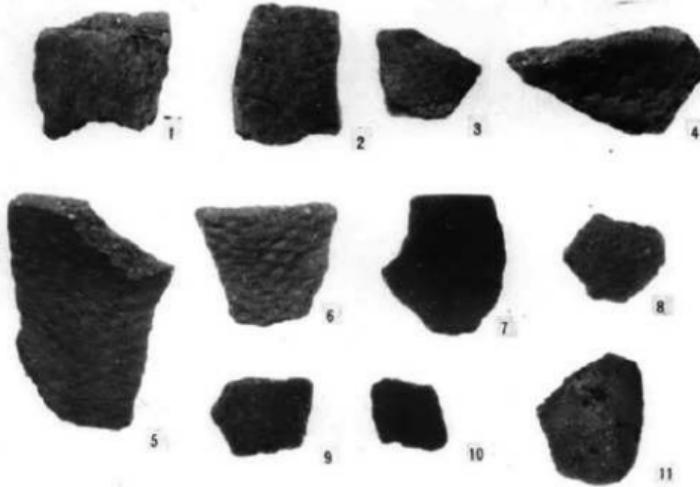
土器出土状况



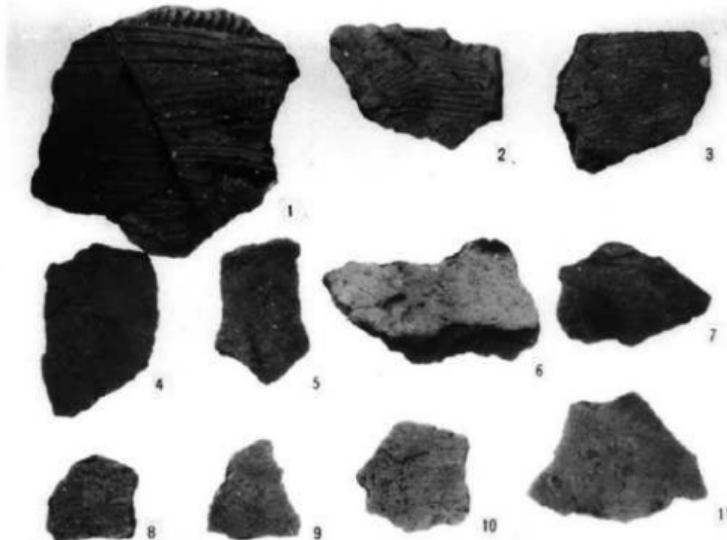
石器出土状况



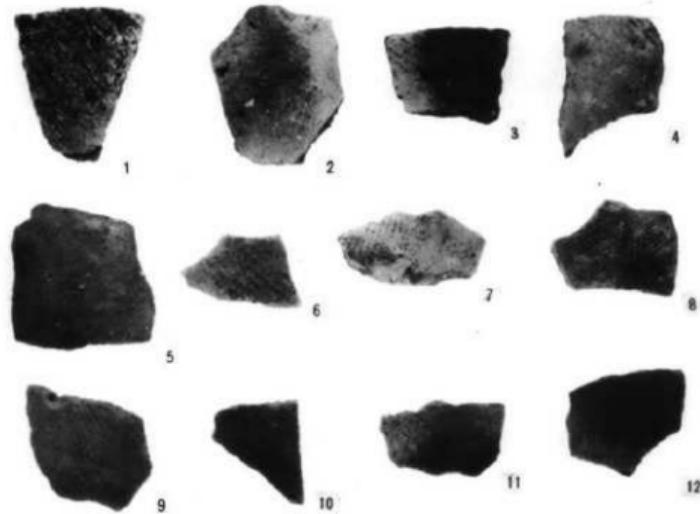
図版7 出土土器



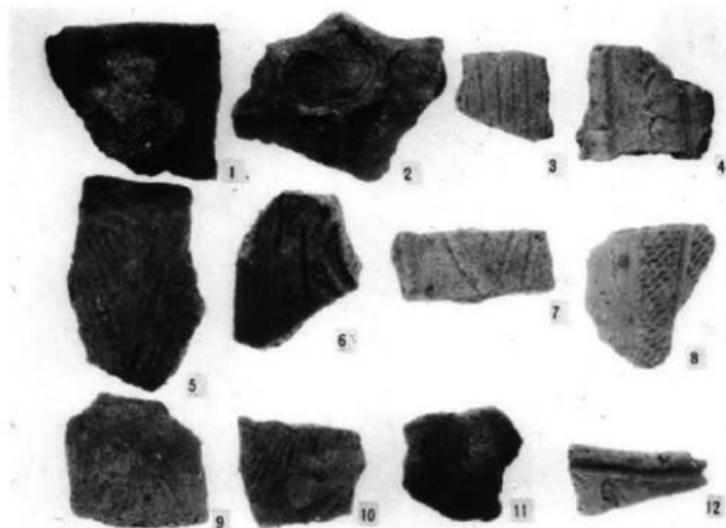
図版8 出土土器



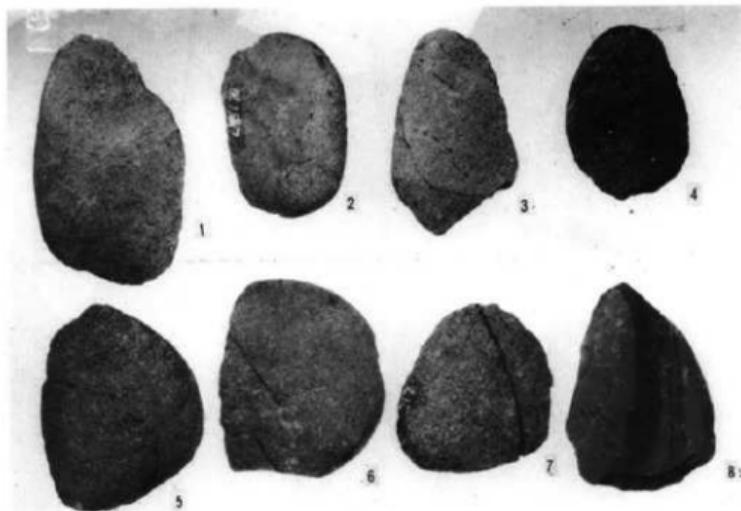
図版9 出土土器



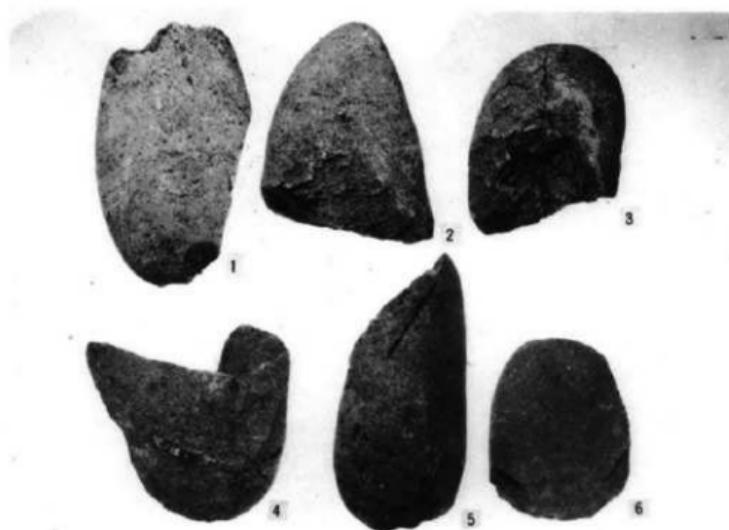
図版10 出土土器



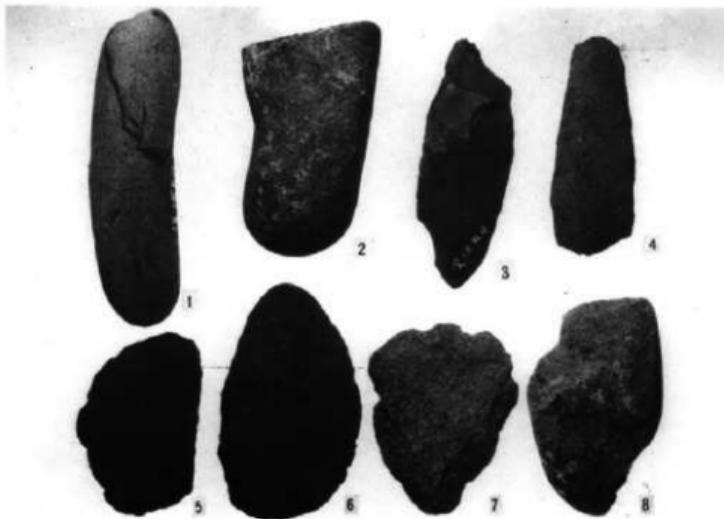
図版11 出土土器



図版12 出土石器



図版13 出土石器



図版14 出土石器

鬼塚遺跡

—緊急発掘調査報告—

昭和54年3月15日 印刷

昭和54年3月17日 発行

発行所 長野県伊那市教育委員会

印刷所 下諏訪町広瀬町
佛オノウエ印刷

